



★特別賞★

きたまちを魅せる滞留空間の創出
～モザイクのまちをちょっと変えませんか?～

きたまち景観探検隊（奈良県立大学） 赤塚晃一 東勝弘
上田莉樺 北村懂子 高杉笑香 高本知佳 板東由夏

1. 背景と目的

- きたまちは、歴史の重層性を示す、多様で魅力的な景観構成要素に富んでいます。また、地形の変化に富み、景色の移ろいを楽しむこともできます。しかし、見どころが散在しているため、一見した限りでは面的なイメージが掴みづらく、きたまちの印象がぼやけてしまうこと。また、休憩場所が少なく、歩行者が歩きづらさを感じてしまうことに、改善の余地があるのではないかと考えました。
- そこで、私たちは、観光客、地域住民、学生の全員にとって、きたまちの魅力がもう少し「**分かりやすく**」かつ「**心地良く（快適に）**」伝わるような空間づくりの可能性について追求することを課題としてとらえ、以下の目標を設定しました。

きたまちらしい風景を印象的に眺めるビューポイント
×
歩行者にとって快適な滞留空間（オープンスペース）

の創出

2. オープンスペースの調査・選定

- まず全員できたまちを徹底的に歩き回り、ビューポイントとオープンスペース(以下、OSと記載)が一体化した場所を抽出しました(図1)。
- ビューポイントの把握においては、きたまちを特徴づける景観構成要素(写真1)を把握することから始めました。平成16年度に奈良街道まちづくり研究会と(社)奈良まちづくりセンターが実施したきたまち景観調査(『奈良きたまち地区における景観形成推進のための調査』H17.3)を参考に現地調査を行い、当時調査に携わった方にもお話を伺いながら、きたまちらしさを感ずる風景とは何か、議論を重ねました。



図1: 調査プロセス

- 次いで、これらの景観構成要素(建造物、自然、人文、眺望)を地図化し(図2)、地形、さらに別途現地調査により把握した、きたまちに潜在・存在するOSの分布状況を重ねて検討し、候補地の抽出を行いました。結果、該当する候補地は33ヶ所ありました。そのうえで、土地の来歴に詳しい住民の方にヒアリングを行い、実現性を考慮して、目標に最適と考えられる**OS5ヶ所**を絞り込みました(図3)。

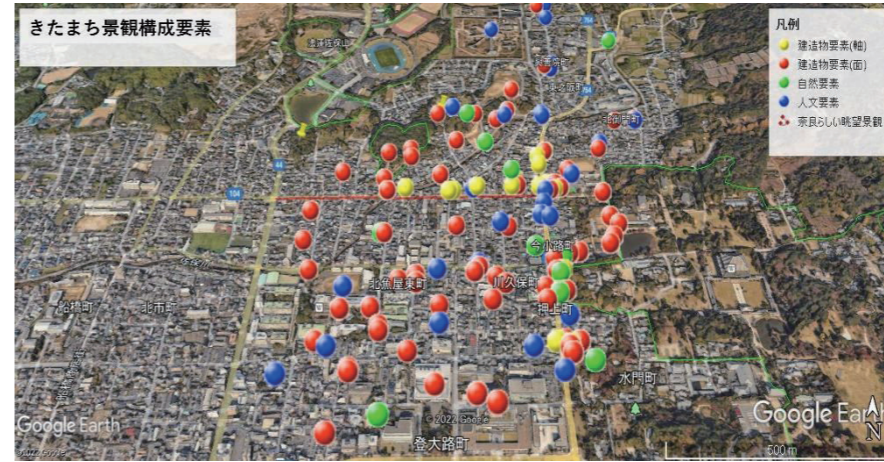


図2: きたまちを特徴づける景観構成要素の分布状況

OS候補地33カ所

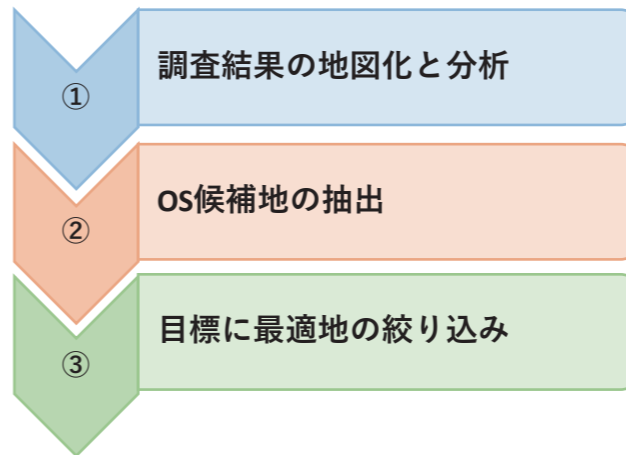


図3: 最終抽出したOS5ヶ所

3. 課題と解決の方向性

以上のプロセスで抽出したOS5ヶ所を対象に、当初の課題を具体化し、解決の方針を定めました。

- ▶課題の具体化
住んでいる人、訪れる人にどのようにして風景を楽しみ、快適にくつろいでもらうか
- ▶解決の方針
◎快適性に必要な要素の導入→ベンチ・木陰・花・水の活用
◎滞留空間を共通のコンセプトでつなぐ

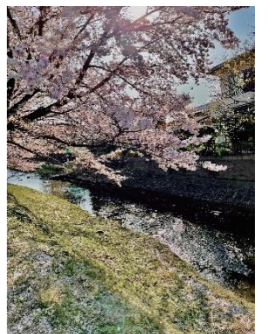


写真1: 景観構成要素一例
佐保川の桜

4. 提案 — 具体の改善案と共通コンセプト

抽出したOSは、北から順に、**旧水道計量器室横空き地**（私有地）、**若草中学校隣接地**（公有地）、**今在家桜広場と周辺公有地**（公有地）、**転害門前広場**（東大寺境内地）、**吉城川街区公園**（公有地）の5ヶ所です。

それぞれの場所の歴史性や社会性、立地環境からみた潜在的価値を念頭に置き、各OSの現状と課題を前提条件として整理したうえで、先述した方針に沿って「住んでいる人、訪れる人にどのようにして風景を楽しみ、快適にくつろいでもらおうか」という課題に対し、改善策の検討を行いました。

▶各OS候補地の現状

旧水道計量器室横空き地

- ▶周辺に北山十八間戸・夕日地蔵
- ▶近傍に奈良市水道関連施設群（土木遺産）
- ▶佐保川から約20メートルに位置する高台
- ▶近隣に子供関連の施設



佐保川今在家桜広場

今在家桜広場と周辺公有地

- ▶佐保川の流れと桜を体感する適地【桜広場】
- ▶日向に位置するベンチ
- ▶分かりにくい入り口
- ▶視界を遮る高いフェンス【周辺公有地】
- ▶木陰、ベンチがなく、閉鎖状態

転害門前広場

- ▶歴史性、立地条件に富む
- ▶イベント時以外の利用者は限られる
- ▶日影がない
- ▶近傍のてんかつでは食事ができない

若草中学校隣接地

- ▶歴史資産多聞城跡地としてのポテンシャル
- ▶木々が繁茂し損なわれた眺望景観
- ▶視界を遮る高いフェンス
- ▶急こう配の坂道。一方で休憩場所がない



若草中学校グラウンド隣接地

吉城川街区公園

- ▶吉城川が暗渠化されていない稀有な場所
- ▶周辺に八坂神社、川中地蔵尊、念聲寺
- ▶公園としての安全性への懸念
- ▶人気がなく寂れた印象



佐保川周辺公有地

	旧水道計量器室横空き地	若草中学校隣接地	今在家桜広場と周辺公有地	転害門前広場	吉城川街区公園
改善策	市民緑地認定制度を活用した公園化	繁茂した草木の一部伐採／ベンチやフェンスのリメイク（伐採木を材として再利用）／東屋の設置	ベンチを木陰に／フェンスを腰の高さに／整備は若草中学校生徒と連携＋α幻燈祭の復活	転害門マルシェの開催／パラソルと椅子の設置／てんかつ一階にストリートピアノを設置 etc.	カラフルなテーブルと椅子の設置／遊具の修繕／樹木の剪定／フロアライト、ウッドデッキの導入 etc.
効果・機能	防災広場の機能を備えたきたまち水道公園（仮称） ①手押しポンプ ②かまどベンチ ③パーゴラの設置 ④太陽光発電灯 ⑤マンホールトイレ（避難時）	人が足を踏み入れやすい環境に改善／多聞城からの 壮大な眺望の追体験 が可能になる	入りづらさや滞在時間の少なさを改善／きたまちの 特徴的な自然の風景をゆっくり味わえる ／ 地域愛の醸成	住民と観光客の 交流 ⇒活気をもたらす／休憩兼食事スペースの創出／人々が気軽に足を運べる	公園としての安全性向上／人気の向上／歴史豊かな周辺環境における くつろぎスポットの機能

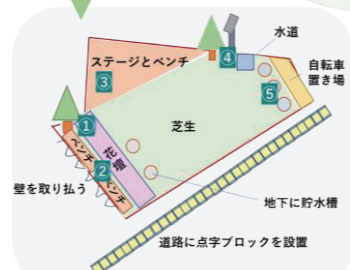
水と防災の広場

眺めの広場

木陰の広場

集いの広場

住宅街の児童公園



きたまち水道公園（仮称）イメージ

【きたまち・モ座イク】

ベンチ・テーブル・看板で統一感を出す

「きたまち・モ座イク」とは、5つのOSをつなぐ共通のコンセプトです。元々きたまちは歴史のモザイクのまちとされています。そのモザイクのザを「座」に置き換えました。各OSは点在していますが、**快適に座れる場所としてつながっている**ことを強調したいと考えます。これらの場所に人々が訪れ、座ってゆっくりくつろぐことができたなら、きたまちなりの良さがじわじわと感じられるのではないのでしょうか。

5. まとめ

きたまちは固有の風景の魅力に富む一方、その魅力が面的に捉えづらいつとろがありました。そこで、私たちはきたまちな風景を魅せる滞留空間として見出した、5つのOSに対する活用提案、そして「きたまち・モ座イク」という共通のコンセプトでこれらをつなぐことを提案しました。きたまちな、十分に活用されていない公園や空き地があります。歴史のモザイクのまちをちょっと変えれば、訪れた人々がきたまちな魅力と居心地の良さを同時に体感できるようになるのではないのでしょうか。

※私たちのヒアリングにご協力いただき一緒に歩いて下さった住民の方々、私有地を提案の対象地として取り上げることに快く許可いただきました所有者の方に、心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。



看板デザイン協力：小段陽菜実